平成18年度　16th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入選作品

主催　伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
（栗原市、登米市、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）
後援　宮城県、若柳観光協会、築館観光協会、登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台支局、
毎日新聞仙台支局、岩手日報社
協賛　富士フイルムイメージング(株)、宮城県写真商業組合

入　選　者

各　賞	題	氏　名	住　所
最優秀賞（宮城県知事賞）	沼の夏	小野寺　亨	栗原市瀬峰
優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）	夕日を浴びて	熊谷俊吾	黒川郡大和町
金賞（栗原市長賞）	群飛び	岩渕良弘	登米市石越町
金賞（登米市長賞）	夏の宵	脇坂　巌	宮城県仙台市
銀賞（若柳観光協会会長賞）	冬の華	佐藤文昭	登米市迫町
銀賞（築館観光協会会長賞）	上を向いて	水谷夕紀	栗原市築館
銀賞（登米市観光物産協会長賞）	朝日を浴びて	佐藤　磨	登米市中田町
銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）	飛び立つ時	椎名由美子	神奈川県鎌倉市
銅賞（河北新報社賞）	漁師が行く	梶原宗孝	登米市東和町
銅賞（読売新聞社賞）	小春日和に	熊田貴志	宮城県仙台市
銅賞（朝日新聞社賞）	別れ	大泉好子	宮城県仙台市
銅賞（毎日新聞社賞）	帰りたくとも 帰れない	中山隆夫	大崎市三本木
銅賞（岩手日報社賞）	夏の伊豆沼	日下武志	宮城県仙台市
入選	セピア色の朝	佐藤浩章	福島県南相馬市
入選	風光に舞う、名残り雪の朝	伊藤　浩	大崎市古川
入選	光彩	熊谷忠浩	登米市迫町
入選	世明けの雁行	伊藤利喜雄	岩手県一関市
入選	朝日に飛び立つ雁	藤村征暉	宮城県塩竈市
入選	初霜の朝	遠藤正弘	南三陸町志津川
入選	晩秋の朝の蓮	遠藤　一	宮城県仙台市

総　評

今年のコンテスト作品は、かなり水準が高く、審査していて応募者の意欲が強く感じられました。毎年、続けて審査していて、今年の作品群は一味違っているな……。と感じました。写真表現も生き物と同じです。毎年、毎年、少しずつ表現方法が変わって言ってこそ、時代に応じた表現が出来ると思います。今年の作品群が、一つのターンポイントになるのかも……。と、思わせてくれて、それがとても楽しみとなりました。一年中、被写体である沼は存在しています。いつでも、どこにでもポイントはあると考えて、しばらく沼の観察を続けてみる。そうすると、きっと面白い出会いがあると思います。頑張ってください。美しい出会いを楽しみにしています。

フォトコンテスト審査員　竹　内　敏　信

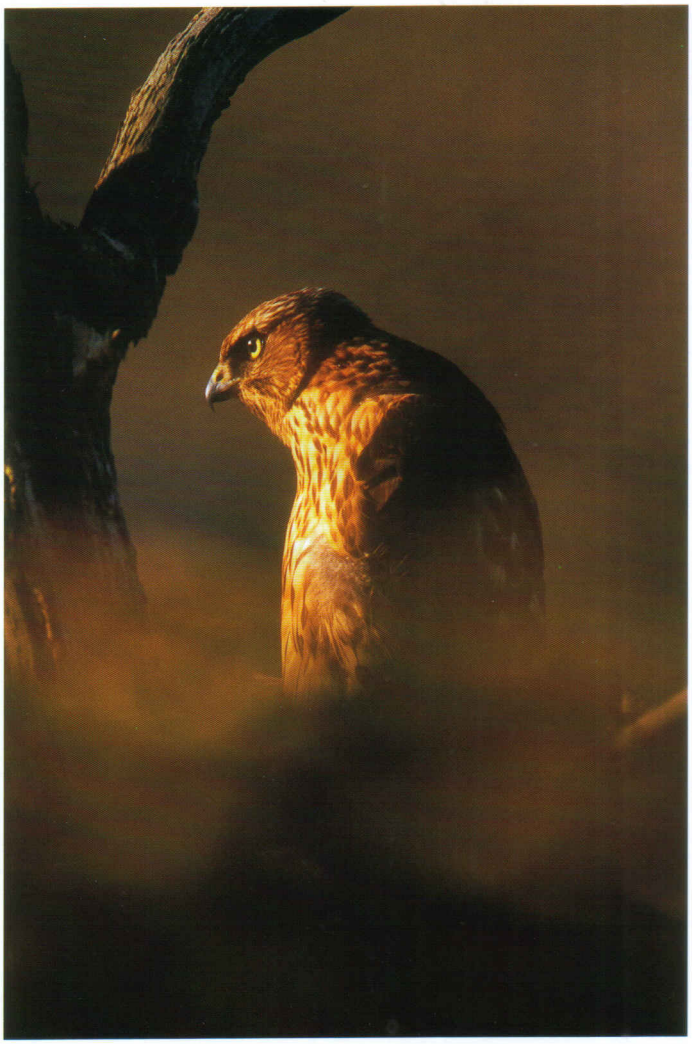
1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒。愛知県庁勤務の後、フリーとなる。主として35ミリ一眼レフカメラを駆使し、鋭利な感覚と的確なテクニックで自然の映像化に挑戦し続ける。風景写真の第一人者として最も人気が高く、多くの写真のコンテストの審査員を務める。写真展、講演会など多数。主な写真集に「花祭」(誠文堂新光社)、「天地」「天地聲聞」「櫻」(出版芸術社)、「天地風韻」(日本芸術出版社)、「雪月花」(トーキョーセブン)
(社)日本写真家協会会員
日本写真芸術専門学校副校長東京工芸大学
現代写真研究所講師

最優秀賞（宮城県知事賞）「沼　の　夏」　小野寺　亨

〔評〕夏空に、蓮の花が大きく花びらを広げています。灼熱の太陽を、全身で受け止めて花を開いているようです。広角レンズを使って、花に接近して迫力を増しています。花の色と夏の空との色彩コントラストも見事で、ダイナミックな作品となっています。

金賞（栗原市長賞）「群　飛　び」　岩渕　良弘

〔評〕大空に向かって乱舞しているカモの軍団を、望遠レンズで的確に捉えて、かなりのボリュームと迫力を感じさせる写真です。採り入れの終わった水田には、稲が干してあり、この頃の季節感が捉えられています。



優秀賞
（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）
「夕日を浴びて」

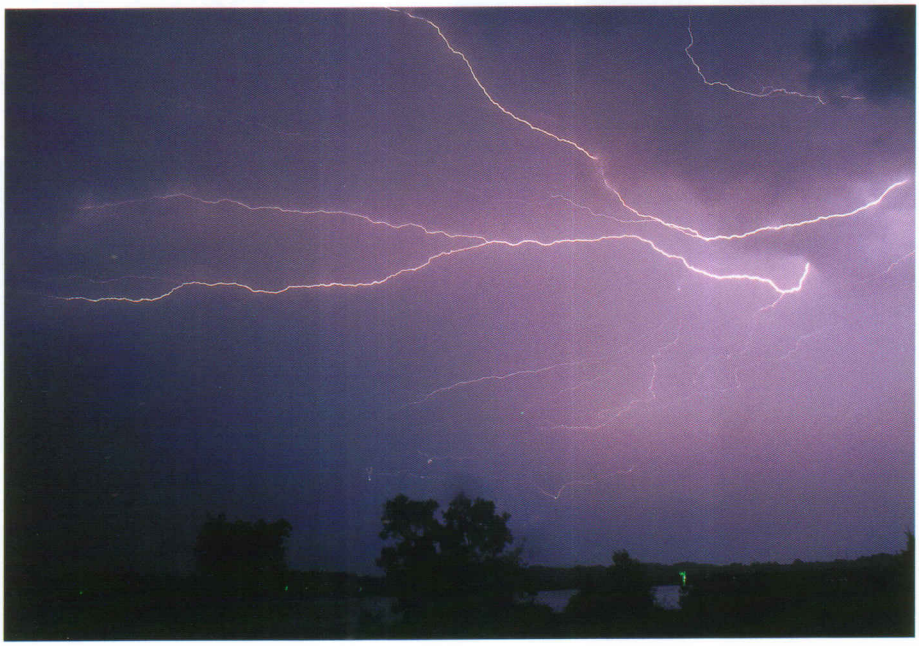
熊谷　俊吾

〔評〕太陽をジーっと見つめる猛禽の、鋭い視線が見事に捉えられています。この鳥が生き物を採って生きているという証拠が、彼の視線に現れています。フレーミングも的確で、野生の強さが感じられる作品となっています。

金賞（登米市長賞）「夏　の　宵」

脇坂　巌

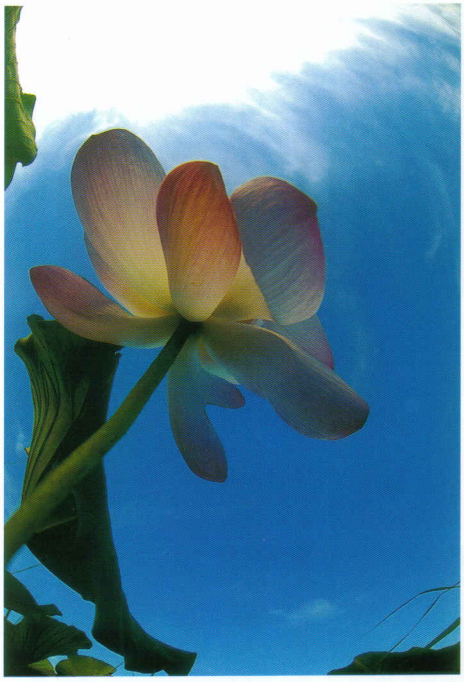
〔評〕天空に数本の稲妻が走っています。ピカッと光って、ゴオーという雷の音を聞きながらかなり危険な撮影をしています。その結果、夕立の後の夏の宵の雰囲気が引き出されています。迫力と情感に満ちた傑作です。



銀賞（若柳観光協会長賞）
「冬の華」　佐藤　文昭

〔評〕霧氷が、木々やススキに付着しています。これはまさに霧氷の華。青い冬空に美しいコントラストを描いて、見事に咲いてくれました。沼や湿地帯からわき出た水蒸気が、付着して美しい霧氷の風景になった所を的確に捉えて成功です。

銀賞（築館観光協会長賞）
「上を向いて」　水谷　夕紀



〔評〕澄みきった青空を背景にして、蓮が大きく花開いております。魚眼レンズで接近して、撮っています。主体の蓮の花を大きく捉えているために、力強いイメージになっているのです。

銀賞（登米市観光物産協会長賞）
「朝日を浴びて」　佐藤　磨

〔評〕湖面で休息している白鳥達の群れ。その姿を美しいアングルから捉えていて、リアリティーのある作品となっています。前景の波の様子がとても美しく捉えられていて、二羽の鳥が羽ばたいているのも、いいシャッターチャンスです。

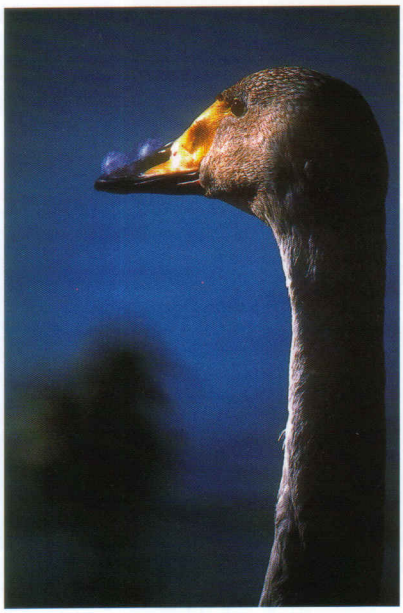
銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「飛び立つ時」　椎名　由美子

〔評〕湖面を蹴って、まさに飛翔しようとしている白鳥の様子を、的確なシャッターチャンスでモノにしています。逆光のライティングによって、浮かび上がった水飛沫がとても印象的に捉えられています。

銅賞（河北新報社賞）
「漁師が行く」　梶原　宗孝

〔評〕夏の沼の風景です。一面に咲いている蓮の花のピンクの色合いが、風景にポイントありとの印象を与えてくれています。中ほどを行く小舟が、とても印象的に捉えられており、この存在で作品としての格調が生まれました。

銅賞（朝日新聞社賞）
「別　　れ」　大泉　好子



〔評〕白鳥のクローズアップです。嘴の上に、二枚の羽毛が付着している珍しい瞬間を捉えています。斜光線のライティングが首に立体感を持たせていて、不思議な存在感に満ちた作品です。

銅賞（読売新聞社賞）
「小春日和に」　熊田　貴志

〔評〕一把の小鴨が捉えられています。後は全部ボケていて、そのために一羽の存在感が強烈に感じされるのです。なんとなく穏やかで惚けているような鴨の姿に、ユーモラスな響きが感じられる作品です。

銅賞（毎日新聞社賞）
「帰りたくとも帰れない」中山　隆夫

〔評〕羽が折れて、ここに残留しなければならなくなった、哀れな白鳥の姿を捉えている作品です。しかし、彼には気高さを誇っているような雰囲気があり、湖面で佇む風景に味わいが出ています。

銅賞（岩手日報社賞）
「夏の伊豆沼」　日下　武志

〔評〕沼の一面に、広がっている蓮の花。蓮の群落と、その前の枯れ木群には、サギのコロニー。湖がそれぞれの生き物の棲み分けをしているような風景です。しかも蓮の花との対比が美しいのです。